複合過去と半過去の区別に関する一考察

—— 現在時との関係の有無 ——

川　　島　　浩 一 郎*

0．はじめに

複合過去記号素と半過去記号素は，これらが属する文法カテゴリが互いに異なる．複合過去記号素は，アスペクト記号素である．半過去記号素は時制記号素である．

（1）Colleen ? C'est moi. Tu *es rentrée* ?（Guillaume Musso, *Sauve-moi*, Collection Pocket, 2005, p. 41）「コリーン？わたしです．帰ってるの？」

（2）Pile comme je *finissais* ma phrase, les lumières s'éteignirent, [...].（Frédéric Beigbeder, *L'amour dure trois ans*, Collection Folio, 1997, p. 86）「ちょうど台詞を言い終えたとき，明かりが消えた，[...].」

（3）Je *finissais* mon bidon quand j'ai vu Betty sortir sur la véranda.（Philippe Djian, *37°2 le matin*, Collection J'ai lu, 1985, p. 56）「デタラメを言い終えようとしていたら，ベティがベランダに出るのが見えた.」

複合過去記号素は，完了アスペクト記号素である．つまり複合過去記号素は，

* 福岡大学人文学部教授

事態の完了を常に標示する．たとえば（1）の tu es rentrée を，未完了の事態として解釈することはできない．

半過去記号素は事態の完了も未完了も，積極的には標示しない．半過去記号素は純粋な過去時制だからである．半過去記号素の実現形を含む発話は，（2）の je finissais ... のように完了した事態として解釈されることもあれば（3）の je finissais ... のように未完了の事態として解釈されることもある．

したがって，完了した事態を表現するのか未完了の事態を表現するのかという基準だけでは，複合過去記号素と半過去記号素を十分に区別することはできない．複合過去記号素と半過去記号素はどちらも，完了した事態に対応することができるからである．事態が完了しているか未完了であるかは，複合過去記号素と半過去記号素の用法を明確に区別できるような基準ではない．

複合過去記号素と半過去記号素の意味機能は，それを使用して現在時間に属する事態に対応できるかそうでないかという基準を適用することによって，明確に区別することができる．複合過去記号素の実現形を含む切片は，（1）の tu est rentrée のように，現在時間に属する事態に対応することができる．半過去記号素の実現形を含む発話は，少なくともモダリティ的価値をともなわないかぎり，現在時間に属する事態に対応することができない．

1. 完了アスペクト記号素と過去時制記号素

1.1　複合過去記号素は完了アスペクト記号素である

複合過去記号素の使用は，事態の完了と常に結び付いている．たとえば（4）の est parti を，未完了の事態として解釈することはできない．（4）において，出発という事態は進行中でもなければ，まだ始まっていないわけでもない．（4）の est parti という動詞形によって表現された事態は，発話時点において，すでに完了していると解釈せざるをえない．

（4）Ludwig *est parti* hier.（Fred Vargas, *Un peu plus loin sur la droite*, Collection J'ai lu, 1996, p. 109）「Ludwig は昨日出発した．」

（5）Aujourd'hui, sur ce plan, les choses *ont changé*.（*Elle,* 24 janvier 2005, p. 46）「今にち，この側面において物事は変化してしまっている．」

（6）Nous sommes bientôt arrivés à la maison.（Agnès Abécassis, *Au secours, il veut m'épouser !*, Collection Le Livre de Poche, 2007, p. 56）「わたしたちは，もう少ししたら，家に到着している．」

（7）Elle avait les yeux rouges comme quelqu'un qui *a pleuré*.（Sébastien Japrisot, *L'été meurtrier*, Collection Folio, 1977, p. 287）「彼女は，泣いた人のように目を赤くしていた．」

複合過去形記号素は，時制記号素ではない．実際，複合過去記号素の用法には，時間的な制約がない．たとえば（4）の est parti は，昨日つまり過去時間に属する事態に言及している．（5）の ont changé は現在時間に属する事態に，（6）の sommes ... arrivés は未来時間に属する事態に言及している．（7）の a pleuré は，特定の時間領域に属する事態に言及しているわけではない．複合過去記号素は，時間概念のない無時間的な概念領域を含めて，あらゆる時間領域に対応が可能である．

したがって，複合過去記号素は完了アスペクト記号素である．複合過去記号素は，動詞記号素が表す事態が完了していることを標示するための表意単位と考えてよい[1]．複合過去記号素は，時制記号素ではないため，その用法に時間的な制約はない．

[1] 複合過去記号素が完了アスペクト記号素であることは，川島（2006）や川島（2014b）でも扱った．

1.2　半過去記号素は純粋な過去時制記号素である

半過去記号素は，過去時制記号素である．半過去記号素の本質は，動詞記号素の実現形を含む発話が表す事態に過去性を加えることにある．たとえば（8）の arrivais という動詞形は，この発話が表す事態が過去時間に属することを示している．

（8）Je n'*arrivais* pas à dormir, [...].（Guillaume Musso, *L'appel de l'ange*, Collection Pocket, 2011, p. 109）「わたしは眠ることができないでいた，[...]．」

（9）Je n'*arrive* pas à dormir.（Fred Vargas, *Sous les vents de Neptune*, Collection J'ai lu, 2004, p. 380）「わたしは眠ることができない．」

半過去記号素は，純粋な過去時制記号素である．半過去記号素は，過去性を標示することしかできない[2]．たとえば（8）の arrivais という動詞形は事態が過去時間に属することに対応し，（9）の arrive は事態が現在時間に属することに対応している．（8）と（9）の意味的な違いは，事態の時間的な位置づけが「過去」にあるか「現在」にあるかだけである．（8）における半過去記号素の存在理由は，事態に過去性を与えることであって，それ以上でも以下でもない．

2. 完了した事態と未完了の事態という区別

2.1　複合過去記号素による事態の完了の標示

複合過去記号素は，事態が完了していることを標示するための表意単位である．複合過去記号素は，完了アスペクト記号素だからである（1.1 を参照）．たとえば（10）の a vécu という動詞形には，この事態が（発話時点において）

[2] 渡瀬（1985，1990，1994，1995，1998，2013）や川島（2006，2012a，2012b，2012c，2013，2014a，2014c）を参照．

すでに完了していることが含意されていると考えてよい．

（10）L'homme de Neandertal *a vécu* environ 300 000 ans.（Maxime Chattam, *La théorie Gaïa*, Collection Pocket, 2008, p. 316）「ネアンデルタール人は 300 000 年間生存した．」

（11）Une enfant meurt. Elle *a* peut-être *été assassinée.*（Brigitte Aubert, *Funérarium*, Collection Points, 2002, pp. 238－239）「子供が一人亡くなった．おそらく殺されたのだろう．」

（12）Si elle *est morte*, je ne le supporterai pas !（Maxime Chattam, *In tenebris*, Collection Pocket, 2002, p. 87）「もし彼女が死んでたら，耐えられないよ！」

複合過去記号素の使用は，すでに完了した事態が言語外現実にあることを，かならずしも必要としない．たとえば（11）においては，a ... été　assassinée で表現されるような事態が言語外現実にあってもよいし，なくてもよい．（12）の est morte は仮定の一部分であって，これに対応するような言語外現実があることを前提としてはいない．複合過去記号素を使用するかしないかは，話し手が事態をどのように捉えて表現するかという認識的な問題である．

2.2　半過去記号素は事態の完了と未完了を区別しない

半過去記号素は，それ自体では，事態に過去性を与えることしかできない．半過去記号素は，純粋な過去時制記号素だからである（1.2 を参照）．たとえば（13）を，いわゆる直説法現在の動詞形を用いた de loin, Marc arrive à vélo（遠くからマルクが自転車で到着しつつある）と比べてみよう．（13）の arrivait に含まれる半過去記号素の実現形は，事態に過去性を与えているに過ぎない．

（13）De loin, Marc *arrivait* à vélo.（Fred Vargas, *Un peu plus loin sur la droite*, Collection J'ai lu, 1996, p. 155）「遠くからマルクが自転車で到着しつつあった．」

（14）Le détective privé était mort. Annabel *arrivait* trop tard.（Maxime Chattam, *Maléfices*, Collection Pocket, 2004, p. 604）「私立探偵は死んでいた．アナベルの到着は遅すぎたのだ．」

したがって半過去記号素には、事態が完了しているか未完了であるかの区別は含意されていない．半過去記号素を用いて事態を表現する場合，その事態が完了しているか未完了であるかは，文脈や状況にもとづく解釈や動詞記号素の性質の問題である[3]．実際，半過去記号素の実現形を含む発話においては，（13）の Marc arrivait ... のように事態が未完了であると解釈されることもあれば，（14）の Annabel arrivait ... のように事態が完了していると解釈されることもある．事態が完了しているか未完了であるかは，半過去形記号素にとっては非本質的な，単なる解釈に過ぎない．

2.3　複合過去記号素と半過去記号素の使い分け

複合過去記号素が事態の完了を常に標示するのに対して，半過去記号素は事態の完了も未完了も積極的には標示しない．複合過去記号素が完了アスペクト記号素であるのに対して（2.1 を参照），半過去記号素は純粋な過去時制だからである（2.2 を参照）．たとえば（15）にみられるように，suis tombée という動詞形には，この事態が（発話時点において）完了していることが含意されている．これに対して tombait という動詞形によって表現された事態は，（16）でのように完了した事態と解釈されることもあれば，（17）でのように未完了の事態として解釈されることもある．

（15）Je *suis tombée* dans un escalier.（Brigitte Aubert, *Transfixions,* Collection Points, 1998, p. 81）「わたしは階段から落ちた．」

（16）Il était pas très tard mais la nuit *tombait* déjà.（Philippe Djian, *37°2*

[3]　半過去記号素が事態の完了と未完了を区別しないことについては，とくに川島（2012a）で主張した．

le matin, Collection J'ai lu, 1985, p. 120）「それほど遅い時間ではなかったが，日は既に暮れていた.」

（17）Le soir *tombait*. Le soleil s'attardait encore sur Sainte-Gudule : [...].（Jacques Roubaud, *La belle Hortense*, Collection Points, 1990, p. 249）「日が暮れつつあった．太陽はまだ Sainte-Gudule の上でぐずぐずしていた.」

したがって，表現する事態が完了しているか未完了であるかという基準だけでは，複合過去記号素と半過去記号素を十分に区別することはできない．半過去記号素を用いて表現された事態は，複合過去記号素の場合と同様に，完了した事態である可能性もある[4]．たとえば（15）の suis tombée と（16）tombait は，いずれも完了した事態に対応している．これらの suis tombé と tombait の使い分けを，事態が完了しているか未完了であるかの区別にもとづいて説明することはできない．

3. 現在時間に属する事態に対する言及の有無

3.1　複合過去記号素は現在時間に属する事態への言及が可能

複合過去記号素の用法には，時間的な制約がない．複合過去記号素は時制記号素ではなく，アスペクト記号素だからである（1.1 を参照）．アスペクト記号素は，事態が属する時間領域を特定する機能をもっていない．

（18）À　présent, j'*ai* bien *compris* : [...].（Amélie Nothomb, *Les Combustibles*, Collection Le Livre de Poche, 2002, p. 49）「今では，ちゃ

[4] 完了したと解釈される事態に半過去記号素が対応している事例について「あたかも未完了であるかのように事態を提示している」というような説明がなされることがある．この説明には説得力がない．もしこのような説明の通りであれば，その事態が完了しているという解釈がそもそも生じないはずである．

んと理解している.」

(19) Et maintenant, il *a disparu*. (Fred Vargas, *Debout les morts*, Collection J'ai lu, 1995, p. 25)「そして現在，彼はいなくなってしまっている.」

(20) Elle *est partie* depuis combien de temps ? (Sébastien Japrisot, *Compartiment tueurs*, Collection Folio, 1962, p. 144)「彼女はいつからいないのですか？」

したがって複合過去記号素の実現形を含む切片は，現在時間に属する事態に対応することができる．複合過去記号素には現在完了的な用法があると言い換えてもよい．たとえば（18）の ai ... compris,（19）の a disparu,（20）の est partie はいずれも，事態を現在時間に属するものとして表現している．

3.2 半過去記号素とモダリティ的価値

半過去記号素の実現形を含む発話を用いて現在時間に属する事態に言及することによって，いわゆるモダリティ的な価値が，その発話に生じることがある．たとえば（21）という発話を（過去時間ではなく）現在時間に属する事態の表現として提示することによって，si j'étais pas ton ami に「非現実の仮定」という解釈が生じる[5]．（22）の je voulais vous demander ... に丁寧な依頼というモダリティ的価値があるとすれば，それは，この発話を使って（過去時間ではなく）現在時間に属する事態を表現しているからである．

(21) Si j'*étais* pas ton ami... eh bien... je te trouverais bizarre... (Patrice Leconte, *Les Femmes aux cheveux courts*, Collection Le Livre de Poche, 2009, p. 59)「もし私が君の友人でなかったら ...，君のことを変な奴だと思っただろうね ...」

[5] 半過去記号素の実現形がもちうる非現実解釈については，とくに川島（2012b）と川島（2013）で分析を行った．

（22）［...］, je *voulais* vous demander quelque chose, mais je voudrais que ça reste strictement entre nous, que mon mari ne l'apprenne pas.（Katherine Pancol, *Les yeux jaunes des crocodiles*, Collection Le Livre de Poche, 2006, p. 483）「お願いしたいことがあるのですが，他の方には決して言わないでください．私の夫にも知らさないで欲しいのです．」

（23）Au lieu de ça, elle sortit et ferma la porte, puis prit la direction des bois. Si elle se *dépêchait*, elle atteindrait la route en dix minutes.（Maxime Chattam, *L'âme du mal*, Collection Pocket, 2002, p. 461）「そうする代わりに，彼女は家から出て扉を閉め，森の方向へと向かった．急げば，10 分で彼女は道にでるはずだった．」

（24）En fait je ne suis rien venu chercher, je *voulais* te rencontrer.（Arnaud Desplechin, *Commet je me suis disputé...*（*ma vie sexuelle*）, Hachette, 1996, p. 62）「実のところ何かを探しに来たわけではありません．君に会いたかったのです．」

逆に言えば，半過去記号素の実現形を含む発話を用いて過去時間に属する事態に言及することによって，半過去記号素の実現形を含む発話にモダリティ的な価値はとくに生じない．（23）の si elle se dépêchait を（現在時間ではなく）過去時間に属する事態の表現として提示するかぎり，si elle se dépêchait を「非現実の仮定」として解釈することはできない．実際（23）の si elle se dépêchait は「非現実の仮定」ではなく「過去における仮定」を表現したものである．同様に（24）の je voulais te rencontrer に丁寧な依頼というようなモダリティ的価値がないのは，この発話を使って言及されているのが（現在時間ではなく）過去時間に属する事態だからにほかならない．

3.3　半過去記号素は現在時間に属する事態への言及が不可能

半過去記号素の実現形を含む発話は，少なくともモダリティ的価値をともなわないかぎり，現在時間に属する事態に言及することができない．半過去記号素の実現形を含む発話を用いて現在時間に属する事態に言及すれば，半過去記号素の実現形を含む切片にモダリティ的な価値が生じてしまう（3.2 を参照）．純粋な過去時制記号素である半過去記号素は，それ自体では，事態に過去性を与えることしかできないからである（2.2 を参照）．

（25）Elle *s'appelait* Mathilde. Elle s'appelle toujours Mathilde d'ailleurs.（Anna Gavalda, *Je l'aimais*, Collection J'ai lu, 2002, p. 76）「彼女はマチルドという名前だった．もっとも現在でもマチルドという名前だけれど．」

（26）La vie *était* dure dans ce pays, elle l'est toujours aujourd'hui, [...].（Marc Levy, *La première nuit*, Collection Pocket, 2009, p. 253）「その国での生活は過酷だった，そして現在でも相変わらず過酷だ，[...]．」

（27）Avant j'*étais* un danger pour eux, aujourd'hui je suis une honte.（Tonino Benacquista, *Malavita encore*, Collection Folio, 2008, p. 332）「以前は彼らにとって，わたしは脅威だったけれど，今日では恥だ．」

（28）Avant-hier encore, vous m'*intriguiez*, mais aujourd'hui vous ne m'intéressez plus.（Fred Vargas, *Les jeux de l'amour et de la mort*, Édition du Masque, 1986, p. 127）「一昨日はまだ，あなたのことが気になっていたけれど，今日はもう興味がなくなっている．」

実際，過去時間に属する事態を表現した発話に半過去記号素の実現形が含まれているという観察にもとづいて，現在時間に属する事態がどのようであるかを推論することはできない．たとえば（25）の elle s'appelait Mathilde や（26）

の la vie était dure ... は，現在時間においても継続中の事態である．これに対して（27）の j'étais un danger ... や（28）の vous m'intriguiez は，現在時間においてはすでに成立していない事態である．半過去記号素の実現形の存在は，つまり，現在時間に属する事態のあり方とは無関係なのである．半過去記号素は，事態に過去性を与える表意単位に過ぎない．

4. まとめ

複合過去記号素と半過去記号素は，これらが所属する文法カテゴリに違いがある．複合過去記号素は，アスペクト記号素である（1.1 を参照）．半過去記号素は，時制記号素である（1.2 を参照）．

完了アスペクト記号素である複合過去記号素が事態の完了を常に標示するのに対して（2.1 を参照），半過去記号素は事態の完了も未完了も積極的には標示しない（2.2 を参照）．半過去記号素は，アスペクト記号素ではなく，過去時制記号素だからである．半過去記号素の実現形を含む発話は，完了した事態として解釈されることもあれば未完了の事態として解釈されることもある．

したがって，表現する事態が完了しているか未完了であるかという基準だけでは，複合過去記号素と半過去記号素を十分に区別することはできない．確かに，未完了の事態に対応できるのは半過去記号素のほうだけである．しかし完了した事態は，複合過去記号素によっても半過去記号素によっても表現が可能である（2.3 を参照）．事態が完了しているか未完了であるかは，複合過去記号素と半過去記号素にとって，本質的な区別ではない．

複合過去記号素と半過去記号素の意味機能は，それを使用して現在時間に属する事態に言及できるかそうでないかという基準によって，十分に区別することができる．複合過去記号素の実現形を含む切片は，現在完了的な用法として，現在時間に属する事態に言及することができる（3.1 を参照）．一方，半過去

記号素の実現形を含む発話は，少なくともモダリティ的価値をともなわないかぎり，現在時間に属する事態に言及することができない（3.2 および 3.3 を参照）．このような相違があるのは，複合過去記号素がアスペクト記号素であるのに対して，半過去記号素が時制記号素であるからにほかならない．

参考文献

川島浩一郎（2006）「フランス語の複合過去と半過去に関する一考察　— 時制とアスペクトの間接的対立 —」『福岡大学研究部論集』A6-3，37-61.

川島浩一郎（2012a）「半過去と未完了解釈　— 完了か未完了かの区別を含意しない過去時制 —」『福岡大学人文論叢』43-4，817-833.

川島浩一郎（2012b）「過去時制と非現実解釈」『ふらんぽー』37, 東京外国語大学フランス語研究室，17-35.

川島浩一郎（2012c）「時間的な対比を表す半過去について」『福岡大学研究部論集』A12-2，9 -13.

川島浩一郎（2013）「半過去と非現実の帰結 — 間一髪の半過去をめぐって —」『福岡大学研究部論集』A 13-1，25-31.

川島浩一郎（2014a）「単純未来，近接未来，近接過去との共起における半過去と単純過去の対立の中和」『福岡大学人文論叢』45-4，521-541.

川島浩一郎（2014b）「複合過去と単純過去の対立の中和」『ふらんぽー』39, 東京外国語大学フランス語研究室，45-65.

川島浩一郎（2014c）「教科書における無標の過去時制：半過去の教え方」『Rencontres』28，関西フランス語教育研究会，107-111.

MARTINET, André（1979）, *Grammaire fonctionnelle du français*, Didier.

渡瀬嘉朗（1985）「動詞の「時」と「相」」『フランス語学の諸問題』三修社，38-49.

渡瀬嘉朗（1990）「「未完了」特性について」『東京外国語大学論集』41，23-38.

渡瀬嘉朗（1994）「Actuel と Inactuel —「現在」と「半過去」，「大過去」—」『東京外国語大学論集』48，43-58.

渡瀬嘉朗（1995）「時制の理論のために — 文意の分析と時制の対立 —」『東京外国語大学論集』50，35-50.

渡瀬嘉朗（1998）「二つの過去形 — 意味の枠組みの明確な過去，枠組みのない過去 —」『フランス語を考える　フランス語学の諸問題 II』三修社，8-21.

渡瀬嘉朗（2013）「時制とマルク」『フランス語をとらえる　フランス語学の諸問題 IV』三修社，10-16.